

平成30年度三重県立飯野高等学校全日制学校マネジメントシート

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒それぞれが信頼される社会人としての基本を身につけている学校 ・個々の生徒の実践力と学力を両立させる学校 ・生徒の可能性を伸ばし、未来を切り拓く力を育成する学校
(2)	育みたい 児童生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな人間性と確かな学力、礼儀やマナー、規律ある行動など、信頼される社会人としての基本を身につけている生徒 ・専門的で特色のある学習活動を通して、高い創造力や国際感覚を身につけそれらを地域やグローバル社会に貢献できる生徒 ・異文化を理解し、自他共に認め合いながら互いの命や人権を尊重できる生徒
	ありたい 教職員像	<ul style="list-style-type: none"> ・高い専門的知識・能力と指導力を有し、情熱を持って教育活動に取り組み、生徒の意欲や向上心を喚起できる教職員 ・学習指導や生徒指導等の教育活動において、粘り強く生徒に接し、理解に努め、一人ひとりの生徒にきめ細かく対応できる教職員 ・新たな取り組みに積極的にチャレンジする向上心を持ち、他の教職員と協力して学校経営や教育内容の向上を目指すことができる教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<p>〈生徒〉 全学年対象アンケートより、わかりやすい授業と充実した進路指導を期待している</p> <p>〈保護者〉 全保護者対象アンケートから教科指導や進路指導の充実を期待している</p> <p>〈地域〉 生徒と共に学ぶ日本語基礎講座の受講希望及びデザインや英語力を活かした活動など高校生の社会貢献を期待している</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待		連携する相手への要望・期待
	<p>〈保護者〉 学力向上と礼儀やマナーを身につける</p> <p>〈中学校〉 多様な生徒の受け入れを期待している</p> <p>〈地域〉 学力、コミュニケーション力を向上させる</p>	<p>〈保護者〉 ・学校教育への理解と積極的な協力を行う</p> <p>〈中学校〉 ・学校生活が適切にできる生徒を育てる</p> <p>〈地域〉 ・卒業生の積極的受け入れを行う</p>	
(3) 前年度の学校関係者評価等		<p>○学校生活への満足度は高いものの、目的意識を持って学校生活に取り組んでいる生徒の割合が低いことから、「なぜ勉強すべきか」について一歩踏み込んだ指導が必要である。社会とのつながりや社会貢献を意識させる体験を通して成功体験を積みせ、自尊感情を育てる活動を取り入れる。</p> <p>○総勤務時間の縮減について、子どもたちと接する時間をコアにし、仕事の整理をするなど教職員の意識改革が必要である。</p>	
(4) 現状と課題	教育活動	<p>【現状】 両科とも特色のある専門性の高い取組を通して、成果、実績を積み重ねてきており、地域からの期待、信頼は厚いものがある。</p> <p>【課題】 高い学力を擁する生徒から、日本語の習得に課題がある生徒まで学力幅が広く、学力層や個々の状況に応じた学習指導を組織的に取組む必要がある。また精神的な支援が必要な生徒や生活習慣及びマナー指導、CLD生徒に対する日本文化に対する理解の促進など、指導体制の充実が必要となっている。</p>	

学校 運営等	<p>【現状】進路指導やキャリア教育の推進を図るよう組織を強化し、基礎学力向上等に関して学校全体で組織的に指導にあたる態勢が確立しつつある。</p> <p>【課題】基本的な生活習慣の確立と集団生活の中で自己管理ができるようになるための生徒指導体制の確立が必要となっている。また、特別な支援が必要な生徒や、日本語の習得に課題がある生徒などに対する支援体制をさらに拡充させることが必要となっている。</p>
-----------	---

3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・3年間を見据えた系統的進路指導プログラムに沿ったキャリア教育の推進と構築を行う。 ・総合的な学習時間等を通して、探究活動を推進し探究心や基礎学力、考える力を育成する。 ・基本的な生活習慣やマナー指導を徹底し、生徒指導の充実を図る。 ・CLD生徒支援教育の充実を図り、日本語指導教育を一層推進する。 ・人権感覚を醸成し、異文化理解や生命の尊厳にかかる教育の充実を図る。
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ・学力の向上を目指し、授業の改善と教職員の指導力向上を図る。 ・応用デザイン科と英語コミュニケーション科の交流を積極的に行い、両科の質の向上を図る。 ・学校の特徴を活かした組織作りと改善活動を積極的に行う。 ・地域の人々と協力連携して貢献活動を行い、学校の情報を地域へ積極的に発信する。 ・教職員及び生徒や保護者にとって安心安全な教育環境を整備する。 ・教職員が充実した業務を行うため、総勤務時間を縮減し、執務環境を整備する。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

項目	取組内容・指標	結果	備考
系統的な進路指導プログラムに沿ったキャリア教育の推進を行う。 総合的な学習時間等を通して、探究活動を推進し探究心や基礎学力、考える力を育成する。	(1)進路意識の向上 ○活動指標 <ul style="list-style-type: none"> ・学年別、学科別進路ガイダンス、校内研修の実施 ・キャリア教育3年間の指針及び内容の構築 ・鈴鹿ロータリークラブの学年集会への参加 ・ガイダンス、講話等各学期2回以上 ・キャリア教育に関わる講話の実践 ・総合的な学習の時間を通じた自己探求 ・進路希望調査における希望未定者の減少率50% 	(1)進路意識の向上 ・ガイダンス等実施回数 ガイダンス6回、講話9回 ・進路希望未定者数 1年575%増(4月4名→1月27名)、2年71.0%減(4月35人→3月10人) (2)進路希望の実現 ・計画的な模擬試験実施 1年到達度テスト(全員:2回)、2年実力診断テスト(全員:1回)、記述模試(希望者:2回)、マーク模試(希望者:1回)、3年マーク模試(希望者:6回) ・模試受検者 応デ科40名、英コミ科28名 ・センター試験受験者 52%増(21→32名) ・国公立大学合格者 16名 ・我究プログラム実施 15回 ・求人数の増加 5.8%増(52人→55人) ・1次試験合格者 78.1%(25/32名) ・面接指導評価 35.3%増(延230回)	※ ◎
	○成果指標 (2)進路希望の実現 進学希望者 ○活動指標 <ul style="list-style-type: none"> ・1年生から目標を設定し、高い志を維持する取組 ・希望に応じた課外等の組織的な取組 ・3年間を見据えた計画的な模試の実施 		
	○成果指標 <ul style="list-style-type: none"> ・模試受験者応デ科30名以上、英コミ科20名以上 ・センター試験受験者前年度比30%増 ・国公立大学合格者15名以上 		
	就職希望者 ○活動指標 <ul style="list-style-type: none"> ・「我究」のプログラム実施 年間12回実施 ・社会人としての能力、基礎学力等の向上をはかる取組、課外等の実施 ・企業訪問等による求人開拓の推進 		
	○成果指標 <ul style="list-style-type: none"> ・求人数の増加 昨年度比3%増 ・1次試験による合格率90%以上 		
	(3)教職員全員による礼儀、マナー指導の実施 ○活動指標 <ul style="list-style-type: none"> ・就職希望者に応じた丁寧で効果的な面接指導の実施 		
	○成果指標 <ul style="list-style-type: none"> ・面接指導評価 前年度比20%増 		

<p>CLD生徒支援教育の充実を図る</p>	<p>(1) 生徒の実態の把握 ○活動指標 ・担任、教科担当者等との情報交換会実施 ・人権教育を含む地域との連携協議 年間3回以上実施</p> <p>(2) 日本語能力の向上 ○活動指標 ・日本語能力試験受験者数及び合格者の増加 ○成果指標 ・第1言語が日本語ではない生徒が3年次7月までに取得するN3以上の合格率 100%</p> <p>(3) 奨学金などの紹介、申込など経済的に困難な生徒・家庭への支援 ○活動指標 ・説明会と申請手続き指導の充実 ・生徒、保護者対象それぞれ年間2回以上</p>	<p>(1) 生徒の実態の把握 ・地域との連携競技 3回</p> <p>(2) 日本語能力の向上 ・N3以上の合格率 61.5%(24/39人)</p> <p>(3) 生徒・家庭への支援 ・説明会等指導の充実 生徒対象に2回、保護者対象に1回</p>	
<p>生徒指導の充実を図る</p>	<p>(1) 指導の機会の充実 ○活動指標 ・すべての生徒を対象とするアンケートと面談を実施 (各3回/年) ・面談内容等の共通理解、情報共有</p> <p>(2) 服装、頭髪、礼儀、マナー、生活習慣に関する指導の充実 ○活動指標 ・年5回の全校集会実施 ・個別面談や個別指導の推進 ・教員全体での一貫した取組の実施</p> <p>○成果指標 ・指導件数(イエローカード発行数)の減少率 (昨年度比30%減)</p>	<p>(1) 指導の機会の充実 ・アンケートと面談 各3回(6、9、1月)</p> <p>(2) 服装・頭髪等の指導充実 ・全校集会 5回(4、5、10、11、1月) ・指導件数 20.0%減(789件→631件)</p>	
<p>人権感覚を醸成し、異文化理解や生命の尊厳にかかる教育の充実を図る。</p>	<p>(1) 人権教育に係る取組 ○活動指標 ・人権LHR及び講話等実施 ・教職員研修会及び人権フィールドワークの実施 (1回以上/年)</p> <p>(2) 異文化理解及びグローバル人材の育成に係る取組 ○活動指標 ・講話等の実施及び地域活動、情報発信</p> <p>(3) 生命の尊厳に係る教育 ○活動指標 ・各学期1回の講話、またLHR等での取組 ○成果指標 ・人権感覚が高まったと感じている生徒の割合 (50%以上)</p>	<p>(1) 人権教育に係る取組 ・教職員研修会等の実施 研修会1回(8月)、フィールドワーク1回(3月)</p> <p>(2) 人材育成に係る取組 ・地域活動 本校を拠点とした多文化共生ディスカッションを年2回</p> <p>(3) 生命の尊厳に係る教育 ・講和等の取組 全学年対象人権講演会(9月)、3年人権LHR(6月)、1・2学年人権LHR(1月) ・人権感覚の高まり 80.7%(9月調査)</p>	
<p>改善課題</p>			
<p>○生徒たちが、自らの適性・興味・関心等に即し、学年が上がるにつれて適切な進路選択ができるよう、学校は一層の指導の充実努める必要がある。</p> <p>○生徒の進路に関する疑問や不安をきめ細かくつかみ、それらを解決できるようなガイダンスや指導を適時に行うことが大切である。</p> <p>○四年制大学を希望する生徒の多くが推薦やAO入試で受験するため、模試の必要性を感じていない。また、金銭的に模試を受験する余裕がない生徒もいる。</p> <p>○学年集会やHR等において、遅刻しないことの大切さを継続して生徒に訴えかけることが重要である。</p>			

(2) 学校運営等

項目	取組内容・指標	結果	備考
<p>学力の向上を目指し、授業改善を行い、教職員の指導力向上を図る</p>	<p>(1) 授業の改善 ○活動指標 ・年2回以上5日間の授業公開の設定 ○成果指標 ・研究授業及び研究協議の設定(全教科1回以上/年) ・校外研修への参加促進 ・学力等に応じた授業の実施 ・アクティブラーニング等の研究の推進 (2) 教職員の教科指導力向上 ○活動指標 ・研究授業参加率(全教員1回以上/年) ・研究授業見学シートの作成・供覧100% ○成果指標 ・研究授業参加率(全教員1回以上/年) ・研究授業見学シートの作成・供覧100% (3) 補習や宿題期間による学習習慣づくりの実施 ○活動指標 ・考査前補習と各学期の宿題期間における指導の充実 ・学力層に応じた補習、課外等の実施 ○成果指標 ・学習習慣が身についたと感じている生徒の割合(50%以上) (4) 英コミ科における英検や TOEIC の受験者数増加 ○成果指標 ・英検2級以上合格者20名以上 (5) 応デ科における各種コンペへの参加数増加 ○成果指標 ・昨年度比10%増</p>	<p>(1) 授業の改善 ・公開授業 3回6日間(5月=1日、6月=2日、11月=3日) (2) 教科指導力向上 ・研究事業等設定 6教科/9教科 ・研究授業参加率 86.8%(33/38人) ・研究授業見学シート 73.3%(22/30人) (3) 学習習慣が身につく 65% (4) 英検 準1級=2名、2級=17名 (5) コンペ参加 126人(14.5%増)</p>	<p>※</p> <p>※</p>
<p>応デ科と英コミ科の交流を積極的に行い、両科の質の向上を図る</p>	<p>(1) 応用デザイン科と英語コミュニケーション科の交流 ○活動指標 ・学年集会、行事、発表会、展覧会での実践 ・協働する機会、グループワーク等の提供(各学期1回以上の実施)</p>	<p>(1) 応デ科・英コミ科交流 ・7回</p>	
<p>学校の特徴を活かした組織作りと改善活動を積極的に行う</p>	<p>(1) 学校マネジメント委員会による改善活動の確立 ○活動指標 ・年間2回以上実施 (2) 国際サポート体制の構築 ○活動指標 ・担任、教科担任、SSW、SCとの連携 ・年間3回以上の実施 (3) 生徒指導委員会・特別支援教育推進委員会の定例化 ○活動指標 ・情報交換など各学期1回以上の実施</p>	<p>(1) マネジメント委員会 2回 (2) 国際サポート体制構築 3回 (3) 生徒指導委員会等 生指委:18回、特支委:2回</p>	<p>※</p>
<p>地域の人々と協力連携して貢献活動を行い、学校の情報を地域へ積極的に発信する</p>	<p>(1) 鈴鹿ロータリークラブとの交流、連携 ○活動指標 ・地域清掃など貢献活動の実施 ○成果指標 ・年2回、生徒参加率50% (2) 積極的な情報発信 ○活動指標 ・本校教育活動の県内中学校への情報提供の充実 ・中学校訪問年3回以上 ・毎月の飯野高校 HP 更新 ・学校案内等の刷新によるPR活動 ○成果指標 ・オープンスクール参加者の入学者選抜受検率 前年度比3%増 (3) 地域主催の展覧会や県等からのデザイン依頼への積極的参加 ○活動指標 ・各コースの積極的参加 ○成果指標 ・176人以上の参加</p>	<p>(1) 鈴鹿 RC との連携 ・貢献活動 4/7 鈴鹿さくら祭り(生徒5、教員2)、6/14 学校環境デー(学校周辺のゴミ拾い:生徒154、教員21)、7/21 りんごの家読み聞かせ(生徒4、教員2) (2) 情報発信 ・中学校への情報発信等 学校案内、カラーチラシを配布 ・中学校訪問 5回(鈴鹿地区3回、他地区2回) (3) デザイン依頼に参加 ・参加者 205人</p>	<p>◎</p>

<p>教職員及び生徒や保護者にとって安心安全な教育環境を整備する</p>	<p>(1) 生徒、保護者のニーズを把握するアンケートの実施 ○活動指標 ・年間1回実施 ・継続実施による経年変化及び定点変化の把握</p> <p>(2) 生徒保護者への携帯メール(まちコミメール)での情報提供 ○活動指標 ・年間5回以上実施 ○成果指標 ・保護者の学校に対する信頼度 前年度比3%増</p> <p>(3) 学校の情報の適切な管理 ○活動指標 ・個人情報管理状況調査の実施 1回/年 ○成果指標 ・個人情報漏洩件数 0件/年</p> <p>(4) 安全点検の実施 ○活動指標 ・不審者情報の周知の徹底 ・盗難防止のための各種取組の実施 教職員による教室等の施錠確認(随時) 外部団体等との連携による学校安全確認(随時)</p>	<p>(1) ニーズ把握 ・アンケート実施 1回(12月) (2) 情報提供 ・携帯メール 30回 ・保護者信頼度 88% (3) 情報管理 ・個人情報管理状況調査 2回 ・情報漏洩 0件 (4) 安全点検 ・盗難防止 教職員による教室等の施錠確認、外部団体等との連携による学校安全確認(随時)</p>	<p>※</p> <p>◎</p>
<p>教職員が充実した業務を行うため、総勤務時間を縮減し、執務環境を整備する</p>	<p>(1) 労働安全衛生の適正化 ○活動指標 ・過重労働者への面談月1回 ・安全衛生委員会年2回実施</p> <p>(2) 総勤務時間の縮減 ○活動指標 ・ノー残業デー年20日間実施(考査期間中に設定) ・夏季休業中における学校閉校日の設定2日 ・総勤務時間縮減の推進(目標値) 月 45h 超延べ人数 18名減(3割減) 月 80h 超延べ人数 5名減(3割減) 時間外勤務時間 平均15時間(3割減) ○成果指標 ・年休等取得の推進 昨年度比+1日取得(18.6日) ・学校部活動運営方針に係る部活動顧問の負担軽減 部活動休養日 週1日 ・業務の効率化・平準化に係る取組の推進 ・会議時間の縮減に向けた取組 ・職員会議の報告・連絡事項のデスクネッツ配信による会議時間の縮減 ・職員会議の時間短縮 60分以内で終了する会議の割合 90%</p> <p>(3) 執務環境の整備と安心、安全な職場環境づくり ○活動指標 ・安全で快適な職場づくり ・パワーハラスメントをはじめとする様々なハラスメントに対する指針の策定及び未然防止対策</p>	<p>(1) 労働安全衛生 ・過重労働者面談 産業医の指導をうけ、必要に応じ校長が実施 ・安全衛生委員会 2回 (2) 総勤務時間 ・ノー残業デー 23日 ・学校閉校日 2日 ・総勤務時間 月 45 時間超 43.8%増(82人)、月 80 時間超 133.3%増(21名)、時間外勤務時間 42.4%増(27.5 時間) ・年休取得日数 15.8日 ・職員会議時間短縮 30.0%(6/20回) (3) 職場環境 ・指針策定、未然防止対策 「ハラスメントに係る指針」及び「再発防止・安全・安心に向けてー職場の安全・安心の視点からー」を策定、職員会議で周知</p>	<p>◎</p> <p>◎</p>
<p>改善課題</p>			
<p>○校内外の公開授業や研究授業への参加を職員に働きかけ、先進的・特徴的な教科指導・教授方法を学ぶことにより、飯野高校における授業の質の向上を図っていく必要がある。</p> <p>○長期休業中の課外授業等の充実を図り、生徒が進んで参加する気運を醸成することが大切である。</p>			

5 学校関係者評価

- 教員の取組みによって生徒に対する指導件数が減少していることは良い。生徒の遅刻件数が多いことについては、その中身が大切であり、事情等によっては指導の緩和も必要ではないか。
- 新しい指標・目標値として、いじめの件数、大学入試センター試験の得点、特別支援や教育相談等を加えることが望まれる。
- 近年、人間関係に悩む子どもが多くなり、教育相談は年々増加しているところであるが、高校卒業後、そういった生徒をどこにつないでいくかを考える必要がある。
- いじめについて、表に出ずに陰湿になっているケースがあるのではないか。こどもからいじめの現状を聴き取り把握する手立てが必要である。

6 次年度に向けた改善策

- 2年生時から、ガイダンスや企業研究の機会を多く設ける。また就職希望者研修会(我究)の内容を改善し、生徒の職業観・就労観の醸成を図る。
- CLD 生徒支援の充実を図り、奨学金の紹介等の際に効果的な指導助言となるよう、保護者対象の説明やアドバイスを密に行うとともに、電話や面談、メールなど、あらゆる方法での問い合わせに応じるようにする。
- 学年集会やHR等において、遅刻しないことの大切さを生徒に訴えかける。
- 大学入試センター試験受験者の平均得点、いじめ件数、相談しやすい教育相談体制の構築について、新たな指標と目標値を設け、充実した指導に努める。